

最新ロボット手術システム「da Vinci SP」を導入



埼玉医科大学国際医療センターでは、2025年1月より、最新の手術支援ロボット「da Vinci SP」を導入しました。「da Vinci SP」は、「Single Port（単一ポート）」を意味し、わずか1か所の小さな切開から、高解像度カメラと3本の多方向に柔軟に動く鉗子を体内に挿入して手術を行います。この技術は、従来の「da Vinci Xi」が必要とする4つ以上の切開を1か所に集約し、患者さんへの侵襲をさらに軽減することを可能にしました。

これにより、患者さんの体表に残る傷が少なくなるだけでなく、術後の疼痛軽減や回復の早期化が期待されます。「da Vinci SP」は、がん手術をはじめとする高精度が求められる外科手術において、安全性と正確性をより高めることができます。

「da Vinci SP」の主な利点

傷口の縮小

「da Vinci SP」では、わずか1か所の小さな切開からカメラと鉗子を挿入するため、体表に残る傷が大幅に減少します。これにより、術後の痛みが軽減されるだけでなく、傷の治癒が早まり、術後の合併症のリスクも低下します。また、体表に残る傷が目立たないため、審美的な観点でも患者さんにとって大きなメリットがあります。

精密な操作

「da Vinci SP」は、高解像度立体視カメラと、多方向に柔軟に動く鉗子を備えています。術者は人間の手では不可能な細かい操作を正確に行うことができます。特にがん手術では、腫瘍周辺の重要な血管

や神経を傷つけるリスクを抑えながら、腫瘍を安全に切除することが可能です。その結果、術後の機能温存が期待でき、患者さんの生活の質（QOL）向上に寄与します。

患者への負担軽減

「da Vinci SP」の単一ポート手術により、従来の多孔式手術と比べて体への負担が大幅に軽減されます。術後の回復が早まるだけでなく、入院期間の短縮や早期の社会復帰が可能となり、患者さんとそのご家族にとって経済的・心理的な負担も軽減されます。

適応領域の拡大

当院では現在、「da Vinci SP」を使用した手術は、一般消化器外科（大腸・肝胆膵）で行われていますが、今後は泌尿器科、婦人科、頭頸部外科、消化器外科（胃）呼吸器外科など、他の診療科にも適応を広げる計画があります。この技術は特に骨盤内や狭い手術部位での操作に強みを発揮するため、適応領域の拡大により、さらに多くの患者さんに恩恵をもたらすことが期待されます。

